

本当に人の命を守る津波避難訓練を

京都大学防災研究所・教授 矢守克也

みなさま、子どもの頃から何度も避難訓練を経験されたことでしょうか。しかし、真剣に取り組んだことはほとんどないという人も、残念ながら非常に多いと思います。避難訓練が形ばかりになり、マンネリ化しているという課題について、防災学は、「だから、防災意識の低い人は困る」と簡単に片付けてきました。しかし、立ち止まって考えてみると、「真剣に取り組もう」、「この訓練なら、自分や自分の大切な人の命を守ることに繋がる」と多くの人が思えるような訓練を防災学が提供できていなかったことの方が問題ではないのか。特に、東日本大震災以降、私はそのように考えるようになりました。

ご存じのように、東日本大震災は、1万9千人近くの死者・行方不明者を数えた大災害で、その9割以上は津波による犠牲者です。しかも、近い将来の発生が心配されている南海トラフ地震・津波では、最悪の場合、犠牲者は32万人に達すると推定されていて、そのほとんどが津波によるものです。たしかに津波の破壊力はすさまじいです。しかし、適切に逃げれば、つまり避難さえすれば、命は守ることができます。この意味で、本当に人の命を守ることでできる避難訓練を作ること、非常に大切な社会的課題です。

本日は、こうした視点に立って私自身が、研究室の仲間たちと一緒にこれまで作り上げた津波避難訓練の手法をいくつかご紹介しようと思います。

(1)津波避難訓練支援アプリ『逃げトレ』:

今の逃げ方でほんとに津波から逃れられたのか？ それもわからない訓練に身が入らないのは当然。成功/失敗成否を判定してくれるスマホアプリ『逃げトレ』(下図)を活用して、よりリアルな設定のもとで地域住民、地元企業等が一体となり、「地区防災計画」づくりの一環として実施している訓練[大阪府堺市、高知県黒潮町など]

(2)「オーダーメイド避難の訓練」:

それぞれ事情が違うのに、なぜか、全員、自治体指定の××小学校を目指す。果たしてそれが、最大の減災効果をあげる避難方法か？ 場合によって、最善(ベスト)ではなく、各自にとっての次善(セカンドベスト)を目指すために地域自治会と地元高校が一緒に行った訓練[静岡県焼津市など]

(3)「屋内避難訓練(玄関先まで訓練)」:

訓練を企画・実施しても参加率は低く、来るのは同じ人ばかり…。でも、「足腰が弱っていて、とてもビルの3階まで走るなんて無理」など、参加しない人にもそれぞれ事情がある。全町あげての地区防災計画づくりプロジェクトで、中学生がお年寄りを手伝って「布団から玄関先まで」逃げるという奇妙な訓練がなされている。そのポテンシャルとは？ [高知県黒潮町など]

津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発

スマートフォンさえもっていれば、「いつでもどこでも、だれでも、だれとでも、すぐに津波避難訓練が可能! 最新の津波浸水想定からあなたは逃げ切れるか?」

訓練開始前に避難場所(赤丸)や想定浸水域を確認可能=ハザードマップの機能も充実

使用中のスマホ画面

結果集約画面に避難の成否、所要時間、移動距離など表示

「敵(津波)を知り、己(行動)を知る」:最新の津波想定と自分の避難行動を同時にライブで可視化! 目的意識なき訓練からの脱却

「津波到達まであと5分!」=カラーで切迫度表示

アプリストアから楽々ダウンロードビデオマニュアルで簡単操作!

自治体等での集団訓練で活用するためのガイドなどサポートHPも充実!

開発:京大・防災研 矢守研究室